学びの改革実践校　取組紹介

学びの改革支援課

学びの改革実践校の取組

■　松川町立松川北小学校の取組

～保と小の連携を問い直し、子どものよさを伸ばす取組～

松川北小は、保育所保育指針や幼稚園教育要領などに共通に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿※」を視点としたスタートカリキュラムの編成に取り組んでいる。

※「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の 10 の姿

下記は、学びの改革実践校応援事業により加配された保小連携コーディネーターのＴ先生が作成している保小連携通信「架け橋」の抜粋である。

保育園で行っていた「せんたくごっこ」（写真左）と１年生の図工「いろあそび」（写真右）は同じような活動でしたが、１年生は２種類のじゃばら折りをしたり、色水を自分で作ったりと、保の遊びから小の活動へとつながり、ステップアップした様子を見ることができました。１年生の学習には、保育園の活動で培われた姿の一つ「思考力の芽生え」が生かされていると言えるのではないでしょうか。

近隣の保育園の年長と自校の１年生の活動を参観し、育ってほしい姿を視点にして気付いたことをまとめている。この保小連携通信を通して幼児期と１年生の学習のつながりが分かると、小学校の先生は保育園での経験を学習に生かそうし、保育園の先生は園での遊びの中で育んだ力がどのように小学校の学習につながっていくのかを知ることができるようになったという。

松川北小のスタートカリキュラム編成は、松川町が目指す「松川町学園化構想」実現への一手でもある。先生方が子どもを見つめる視点を共有し、先生方が互いの園校を気軽に行き来できる雰囲気づくりをしながら、保と小のつながりのある学びを実現することで、園で育んできた子どものよさを小学校でさらに伸ばすことができると考えている。

■　上田市立第六中学校の取組

～専任教諭を配置した支援教室を開設し、不登校半減を具現するシステムのあり方の研究～

上田市立第六中学校では、校内フリースクールという新たな居場所づくりを進めている。具体的には、校内で使用されていない一教室を、学校への行きづらさを感じている生徒が、校内でも安心して過ごすことのできる居場所(通称サポートルーム)として改装した。また、専任教諭を配置し継続して生徒に対応していくことで、生徒の心理的安全性をつくることも重視した。

サポートルームでは、来室する生徒の自己決定を大切にしている。来室した生徒は、自身の時間の過ごし方を計画し、実行していくことになる。また、学習保障の場としても位置付いており、生徒は、Chromebook を使用し学級の授業をオンラインで視聴しながら学習したり、学級で使用予定のプリントを用いて学習したりしている。いずれも、専任教諭が生徒一人一人に寄り添い、指導の個別化を図っている。

７月現在で、このサポートルームを利用した生徒は、12 名いる。中には、このサポートルームへの登校をきっかけに、学校行事や学級での授業に参加できるようになった生徒もいる。１学期の終業式では、６名の生徒がサポートルームに登校し終業式を迎えることができた。今後も校内フリースクールのよりよいあり方を模索し、実践していく。